

議案第 7 9 号

松前町病院事業修学資金貸付条例等の一部を改正する条例制定に  
ついて

松前町病院事業修学資金貸付条例等の一部を改正する条例を次のように制定  
するものとする。

令和 2 年 1 2 月 1 4 日 提出

松前町長 石 山 英 雄



## 松前町病院事業修学資金貸付条例等の一部を改正する条例

(松前町病院事業修学資金貸付条例の一部改正)

第1条 松前町病院事業修学資金貸付条例（平成19年松前町条例第2号）の一部を次のように改正する。

題名を次のように改める。

### 松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例

第1条を次のように改める。

(目的)

第1条 この条例は、松前町立松前病院（以下「病院」という。）において、医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師（以下「医療技術職」という。）の医療業務に従事しようとする者に対し、医療技術職を養成する学校又は養成所（以下「養成施設」という。）の修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）を予算の範囲内で貸付けし、もって病院に必要な医療従事者を育成し、かつ、確保に資することを目的とする。

第12条を第13条とし、第11条を第12条とし、第10条を第11条とする。

第9条中「第7条」を「第8条」に改め、同条を第10条とする。

第8条を第9条とする。

第7条中「第5条第1項」を「第6条第1項」に、「看護業務」を「医療業務」に改め、「(前条第2号の規定に該当することとなった者を除く。)」を削り、同条を第8条とする。

第6条第1号中「看護師免許」を「医療技術職の免許」に、「病院で看護業務」を「病院において医療業務」に改め、「1.5倍」の次に「(看護師及び准看護師で貸付金額が月額100,000円以内の場合は、1.0倍)」を加え、同条第2号中「看護業務」を「医療業務」に改め、同条を第7条と

する。

第5条第3項中「第11条」を「第12条」に改め、同条を第6条とする。

第4条を第5条とする。

第3条の見出し中「貸付」を「貸付け」に改め、同条を第4条とする。

第2条の見出しを「(貸付けの金額)」に改め、同条第1項を次のように改める。

修学資金の貸付けの金額は、別表のとおりとする。

第2条を第3条とし、第1条の次に次の1条を加える。

(貸付けの対象者等)

第2条 修学資金の貸付けの対象者は、次に掲げる者が第2項各号のいずれかの養成施設に在学している者とする。

- (1) 養成施設を卒業し、かつ、医療技術職の免許を取得した後、直ちに病院において医療業務に従事しようとする者
- (2) 現に病院において准看護師として医療業務に従事している者が当該業務に従事しながら看護師の養成施設に在学している者で、当該養成施設を卒業し、かつ、看護師の免許を取得した後、引き続き病院において当該業務に従事しようとする者

2 前項に規定する養成施設は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の医学部又は大学院の医学研究科
- (2) 学校教育法に規定する大学の薬学部
- (3) 診療放射線技師法（昭和26年法律第226号）に基づく学校又は診療放射線技師養成所
- (4) 臨床検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）に基づく学校又は臨床検査技師養成所
- (5) 臨床工学技士法（昭和62年法律第60号）に基づく学校又は臨床工学技士養成所
- (6) 理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）に基づく学校、理学療法士養成施設又は作業療法士養成施設

- (7) 言語聴覚士法（平成9年法律第132号）に基づく学校又は言語聴覚士養成所
- (8) 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）に基づく学校、看護師養成所又は准看護師養成所

附則の次に次の別表を加える。

別表(第3条関係)

区分		貸付金額（月額）
医師		200,000円以内
薬剤師		180,000円以内
診療放射線技師		160,000円以内
臨床検査技師		160,000円以内
臨床工学技士		160,000円以内
理学療法士及び作業療法士		160,000円以内
言語聴覚士		160,000円以内
看護師及び 准看護師	第2条第1項第1号に掲げる者	160,000円以内
	第2条第1項第2号に掲げる者	80,000円以内

（松前町医療従事者養成修学資金貸付条例の一部改正）

第2条 松前町医療従事者養成修学資金貸付条例（平成11年松前町条例第11号）の一部を次のように改正する。

第1条中「臨床検査技師」の次に「、臨床工学技士」を、「作業療法士」の次に「、言語聴覚士」を加え、「貸し付け」を「貸付け」に改める。

第2条第2項及び第3項を次のように改める。

2 修学資金は、次の各号の一に該当する養成施設に在学している者に対し、予算の範囲内において貸付けする。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の医学部若しくは歯学部又は大学院の医学研究科若しくは歯学研究科
- (2) 学校教育法に規定する大学の薬学部
- (3) 診療放射線技師法（昭和26年法律第226号）に基づく学校又は診療放射線技師養成所
- (4) 臨床検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）に基づく学校又は臨床検査技師養成所
- (5) 臨床工学技士法（昭和62年法律第60号）に基づく学校又は臨床工学技士養成所
- (6) 理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）に基づく学校、理学療法士養成施設又は作業療法士養成施設
- (7) 言語聴覚士法（平成9年法律第132号）に基づく学校又は言語聴覚士養成所
- (8) 歯科衛生士法（昭和23年法律第204号）に基づく学校又は歯科衛生士養成所
- (9) 歯科技工士法（昭和30年法律第168号）に基づく学校又は歯科技工士養成所
- (10) 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）に基づく学校、保健師養成所、助産師養成所、看護師養成所又は准看護師養成所

3 松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例（平成19年松前町条例第2号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者又は他の医療施設等から貸付けを受けている者若しくは受けようとする者で、当該貸付け終了後その医療施設等で就労しなければならない者は、貸付けの対象としないものとする。ただし、町長が特別の事情があると認めたときは、この限りでない。

第3条の見出しを「(貸付けの金額)」に改め、同条第1項中「貸付期間及び貸付金額」を「貸付けの金額」に改める。

第8条中「(同条第2号の規定に該当することとなつた者を除く。)」を削

る。

別表を次のように改める。

別表（第３条関係）

区分	貸付金額（月額）
医師及び歯科医師	１８０，０００円以内
薬剤師	９０，０００円以内
診療放射線技師	９０，０００円以内
臨床検査技師	８０，０００円以内
臨床工学技士	８０，０００円以内
理学療法士及び作業療法士	８０，０００円以内
言語聴覚士	８０，０００円以内
歯科衛生士	８０，０００円以内
歯科技工士	８０，０００円以内
保健師、助産師、看護師及び准看護師	８０，０００円以内

（松前町奨学資金条例の一部改正）

第３条 松前町奨学資金条例（昭和４４年松前町条例第９号）の一部を次のように改正する。

第２条に次のただし書を加える。

ただし、松前町医療従事者養成修学資金貸付条例（平成 11 年松前町条例第 11 号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者又は松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例（平成 19 年松前町条例第 2 号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者を除く。

## 附 則

### （施行期日）

- 1 この条例は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

### （経過措置）

- 2 第 1 条の規定による改正後の松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例第 7 条第 1 号の規定は、この条例の施行日（以下「施行日」という。）以後の貸付分から適用し、施行日前の貸付分については、なお従前の例による。

（松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する条例の一部改正）

- 3 松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する条例（平成 23 年松前町条例第 16 号）の一部を次のように改正する。

別表資金の貸付の項中「病院事業修学資金」を「病院事業医療技術職修学資金」に改める。



## 松前町病院事業修学資金貸付条例等の一部を改正する条例の概要

### 1 改正の趣旨

医療系の大学、養成所に在学している者又は進学しようとする者は、現行、松前町病院事業修学資金、松前町医療従事者養成修学資金及び松前町奨学資金の3種類の貸付けを受けることができますが、それぞれに申請手続きを要することとなり、貸付けを受けようとする者の負担となっております。

このことから、貸付けを受けようとする者の申請手続きの負担軽減を図るため、町立松前病院に従事しようとする者の申請は、松前町病院事業修学資金の貸付けに1本化するなど、医療従事者の確保に繋がるよう関係する貸付条例の一部を改正しようとするものです。

### 2 主な改正の内容

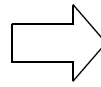
#### (1) 松前町病院事業修学資金貸付条例（平成19年松前町条例第2号）

##### ア 題名

「松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例」に改正する。

イ 貸付対象者及び貸付金額  
改正前

区分	貸付金額(月額)
看護師及び 准看護師	80,000円以内



改正後

区分		貸付金額(月額)
医師		200,000円以内
薬剤師		180,000円以内
診療放射線技師		160,000円以内
臨床検査技師		160,000円以内
臨床工学技士		160,000円以内
理学療法士及び作業療法士		160,000円以内
言語聴覚士		160,000円以内
看護師及び 准看護師	下記以外の者	160,000円以内
	現に町立松前病院に勤務している准看護師	80,000円以内

※ 現に町立松前病院において准看護師として医療業務に従事している者が当該業務に従事しながら看護師の養成施設に在学している者で養成施設を卒業し、かつ、看護師の免許を取得した後、引き続き町立松前病院において看護業務に従事しようとする者を加え、明確にする。

ウ 返還債務の免除

看護師及び准看護師で貸付金額が月額100,000円以内の場合のみ、返還債務の免除期間を修学した期間の1.5倍を1.0倍に短縮する。

(2) 松前町医療従事者養成修学資金貸付条例（平成11年松前町条例第11号）

ア 貸付対象者

(ア) 医師法（昭和23年法律第201号）に規定する臨床研修中の者を貸付対象者から除く。

(イ) 臨床工学技士法（昭和62年法律第60号）又は言語聴覚士法（平成9年法律第132号）に基づく学校若しくは養成施設に在学している者を貸付対象者に加える。

(ウ) 松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者を貸付対象者から除く。

イ 貸付金額

改正前

区分	貸付金額（月額）
医師・歯科医師	150,000円以内
薬剤師	60,000円以内
診療放射線技師	60,000円以内
臨床検査技師	50,000円以内
_____	_____
理学療法士・作業療法士	50,000円以内
_____	_____
歯科衛生士	50,000円以内
歯科技工士	50,000円以内
保健師	50,000円以内
助産師	50,000円以内
看護師	50,000円以内
准看護師	50,000円以内

改正後

区分	貸付金額（月額）
医師及び歯科医師	180,000円以内
薬剤師	90,000円以内
診療放射線技師	90,000円以内
臨床検査技師	80,000円以内
臨床工学技士	80,000円以内
理学療法士及び作業療法士	80,000円以内
言語聴覚士	80,000円以内
歯科衛生士	80,000円以内
歯科技工士	80,000円以内
保健師、助産師、看護師及び准看護師	80,000円以内



(3) 松前町奨学資金条例（昭和44年松前町条例第9号）

貸付対象者から松前町医療従事者養成修学資金貸付条例及び松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者を除く。

3 施行期日等

(1) 施行期日

この条例は、令和3年4月1日から施行する。

(2) 経過措置

改正後の松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例第7条第1号の規定は、この条例の施行日（以下「施行日」という。）以後の貸付分から適用し、施行日前の貸付分については、なお従前の例による。

(3) 松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する条例の一部改正

松前町病院事業修学資金貸付条例の一部改正により、題名が変更となったため、別表に規定している「病院事業修学資金」を「病院事業医療技術職修学資金」に改める。

4 新旧対照表

別紙のとおり

## 新 旧 対 照 表

現 行	改 正 案
<p>第1条による改正</p> <p><u>松前町病院事業修学資金貸付条例</u></p> <p>(目的)</p> <p><u>第1条 この条例は、保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第21条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した看護師養成所（以下「養成施設」という。）に在学し、又は入学しようとする者で、養成施設を卒業した後直ちに松前町立松前病院（以下「病院」という。）において看護職員の業務（以下「看護業務」という。）に従事しようとする者に対し、予算の範囲内で、その修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）を貸付けし、もって病院に必要な看護師を育成し、かつ、確保することを目的とする。</u></p>	<p>第1条による改正</p> <p><u>松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例</u></p> <p>(目的)</p> <p><u>第1条 この条例は、松前町立松前病院（以下「病院」という。）において、医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師（以下「医療技術職」という。）の医療業務に従事しようとする者に対し、医療技術職を養成する学校又は養成所（以下「養成施設」という。）の修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）を予算の範囲内で貸付けし、もって病院に必要な医療従事者を育成し、かつ、確保に資することを目的とする。</u></p> <p>――</p> <p>(貸付けの対象者等)</p> <p><u>第2条 修学資金の貸付けの対象者は、次に掲げる者が第2項各号のいずれかの養成施設に在学している者とする。</u></p> <p>(1) <u>養成施設を卒業し、かつ、医療技術職の免許を取得した後、直ちに病院において医療業務に従事しようとする者</u></p> <p>(2) <u>現に病院において准看護師として医療業務に従事している者が当該業務に従事しながら看護師の養成施設に在学している者で、当該養成施設を卒業し、かつ、看護師の免許を取得した後、引き続き病院において当該業務に従事しようとする者</u></p> <p><u>2 前項に規定する養成施設は、次に掲げるとおりとする。</u></p> <p>(1) <u>学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の医学部又は大学院の医学研究科</u></p> <p>(2) <u>学校教育法に規定する大学の薬学部</u></p> <p>(3) <u>診療放射線技師法（昭和26年法律第226号）に基づく学校又は診療放射線技師養成所</u></p> <p>(4) <u>臨床検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）に基づく学校又は臨床検査技師養成所</u></p> <p>(5) <u>臨床工学技士法（昭和62年法律第60号）に基づく学校又は臨床工学技士養成所</u></p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案
<p>(貸付金額等)</p> <p><u>第2条</u> 修学資金の貸付金額及び貸付期間は次に掲げるとおりとする。</p> <p>(1) 貸付金額 月額80,000円以内</p> <p>(2) 貸付期間 前条に規定する養成施設に在学する期間中</p> <p>2 略</p> <p>(貸付の申請)</p> <p><u>第3条</u> 略</p> <p>2 略</p> <p>(連帯保証人)</p> <p><u>第4条</u> 略</p> <p>2～3 略</p> <p>(貸付けの取消し等)</p> <p><u>第5条</u> 略</p> <p>(1)～(4) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 管理者は、貸付けを受けている者が正当な理由がなく<u>第11条</u>の学業成績表及び健康診断書又は生徒健康診断票の写しを提出しない場合には、修学資金の貸付けを保留することができる。</p> <p>(返還債務の免除)</p> <p><u>第6条</u> 略</p> <p>(1) 養成施設を卒業し、かつ、<u>看護師免許</u>を取得した後、直ちに病院で看護業務に従事した場合において、当該業務に引き続き従事した期間が修学資金の貸付けを受けて修学した期間の1.5倍 _____に相当する期間（以下</p>	<p>(6) <u>理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）に基づく学校、理学療法士養成施設又は作業療法士養成施設</u></p> <p>(7) <u>言語聴覚士法（平成9年法律第132号）に基づく学校又は言語聴覚士養成所</u></p> <p>(8) <u>保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）に基づく学校、看護師養成所又は准看護師養成所</u></p> <p>(貸付けの金額)</p> <p><u>第3条</u> 修学資金の貸付けの金額は、別表のとおりとする。</p> <p>_____</p> <p>2 略</p> <p>(貸付けの申請)</p> <p><u>第4条</u> 略</p> <p>2 略</p> <p>(連帯保証人)</p> <p><u>第5条</u> 略</p> <p>2～3 略</p> <p>(貸付けの取消し等)</p> <p><u>第6条</u> 略</p> <p>(1)～(4) 略</p> <p>2 略</p> <p>3 管理者は、貸付けを受けている者が正当な理由がなく<u>第12条</u>の学業成績表及び健康診断書又は生徒健康診断票の写しを提出しない場合には、修学資金の貸付けを保留することができる。</p> <p>(返還債務の免除)</p> <p><u>第7条</u> 略</p> <p>(1) 養成施設を卒業し、かつ、<u>医療技術職の免許</u>を取得した後、直ちに病院において医療業務に従事した場合において、当該業務に引き続き従事した期間が修学資金の貸付けを受けて修学した期間の1.5倍 <u>（看護師及び准看護師で貸付金額が月額100,000円以内の場合は、1.0倍）</u>に相当する期間（以下</p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案
<p>「義務従業期間」という。)に達したとき。  (2) 前号に規定するところにより<u>看護業務</u>に従事する期間中に当該業務上の事由により死亡し、又は当該業務に起因する心身の故障のため<u>看護業務</u>を継続することができなくなったとき。</p> <p>(返還)  <u>第7条</u> 第5条第1項の規定により修学資金の貸付けを取り消された者又は借受者で義務従業期間に達する前に病院において<u>看護業務</u>に従事しなくなったもの(前条第2号の規定に該当することとなつた者を除く。)は、その修学資金の貸付けを取り消され、又はその<u>看護業務</u>に従事しなくなった日の属する月の翌月から起算して2箇月以内に、管理者が定めるところにより、貸付けを受けた修学資金の全部又は一部を返還しなければならない。</p> <p>(返還債務の執行猶予等)  <u>第8条</u> 略</p> <p>(違約金)  <u>第9条</u> 第7条の規定により貸付けを受けた修学資金を返還すべき者が、その返還期限までに返還金の全部又は一部を支払わなかった場合は、年10.95パーセントの割合をもって返還期限の翌月から返還の日までの日数に応じて計算した違約金を徴収する。ただし、管理者は、特別の事情があると認めるときは、その違約金の全部又は一部を免除することができる。</p> <p>(身分事項等の届出)  <u>第10条</u> 略  (1)～(2) 略</p> <p>(学業成績表等の届出)  <u>第11条</u> 略</p> <p>(委任)  <u>第12条</u> 略</p>	<p>「義務従業期間」という。)に達したとき。  (2) 前号に規定するところにより<u>医療業務</u>に従事する期間中に当該業務上の事由により死亡し、又は当該業務に起因する心身の故障のため<u>医療業務</u>を継続することができなくなったとき。</p> <p>(返還)  <u>第8条</u> 第6条第1項の規定により修学資金の貸付けを取り消された者又は借受者で義務従業期間に達する前に病院において<u>医療業務</u>に従事しなくなったもの  <u>第9条</u> は、その修学資金の貸付けを取り消され、又はその<u>医療業務</u>に従事しなくなった日の属する月の翌月から起算して2箇月以内に、管理者が定めるところにより、貸付けを受けた修学資金の全部又は一部を返還しなければならない。</p> <p>(返還債務の執行猶予等)  <u>第9条</u> 略</p> <p>(違約金)  <u>第10条</u> 第8条の規定により貸付けを受けた修学資金を返還すべき者が、その返還期限までに返還金の全部又は一部を支払わなかった場合は、年10.95パーセントの割合をもって返還期限の翌月から返還の日までの日数に応じて計算した違約金を徴収する。ただし、管理者は、特別の事情があると認めるときは、その違約金の全部又は一部を免除することができる。</p> <p>(身分事項等の届出)  <u>第11条</u> 略  (1)～(2) 略</p> <p>(学業成績表等の届出)  <u>第12条</u> 略</p> <p>(委任)  <u>第13条</u> 略</p>

現 行	改 正 案																				
<p>附 則 (略)</p>	<p>附 則 (略)</p> <p>別表（第3条関係）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1142 360 1742 426">区分</th><th data-bbox="1744 360 2087 426">貸付金額（月額）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1142 427 1742 493">医師</td><td data-bbox="1744 427 2087 493">200,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 494 1742 560">薬剤師</td><td data-bbox="1744 494 2087 560">180,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 561 1742 627">診療放射線技師</td><td data-bbox="1744 561 2087 627">160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 628 1742 694">臨床検査技師</td><td data-bbox="1744 628 2087 694">160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 695 1742 761">臨床工学技士</td><td data-bbox="1744 695 2087 761">160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 762 1742 828">理学療法士及び作業療法士</td><td data-bbox="1744 762 2087 828">160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 829 1742 895">言語聴覚士</td><td data-bbox="1744 829 2087 895">160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 896 1742 962">看護師及び</td><td data-bbox="1744 896 2087 962">第2条第1項第1号に掲げる者 160,000円以内</td></tr> <tr> <td data-bbox="1142 963 1742 1029">准看護師</td><td data-bbox="1744 963 2087 1029">第2条第1項第2号に掲げる者 80,000円以内</td></tr> </tbody> </table>	区分	貸付金額（月額）	医師	200,000円以内	薬剤師	180,000円以内	診療放射線技師	160,000円以内	臨床検査技師	160,000円以内	臨床工学技士	160,000円以内	理学療法士及び作業療法士	160,000円以内	言語聴覚士	160,000円以内	看護師及び	第2条第1項第1号に掲げる者 160,000円以内	准看護師	第2条第1項第2号に掲げる者 80,000円以内
区分	貸付金額（月額）																				
医師	200,000円以内																				
薬剤師	180,000円以内																				
診療放射線技師	160,000円以内																				
臨床検査技師	160,000円以内																				
臨床工学技士	160,000円以内																				
理学療法士及び作業療法士	160,000円以内																				
言語聴覚士	160,000円以内																				
看護師及び	第2条第1項第1号に掲げる者 160,000円以内																				
准看護師	第2条第1項第2号に掲げる者 80,000円以内																				

※ \_\_\_\_\_が改正部分



現 行	改 正 案
<p>第2条による改正</p> <p>松前町医療従事者養成修学資金貸付条例</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 この条例は、医師、歯科医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師____、理学療法士、作業療法士____、歯科衛生士、歯科技工士、保健師、助産師、看護師又は准看護師（以下「医療従事者」という。）を養成する学校又は養成所（以下「養成施設」という。）に在学している者で、将来松前町の職員として又は松前町内の医療施設において医療業務に従事しようとするものに対し、その修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）を貸し付け、もつて施設に必要な医療従事者を育成し、及び確保することを目的とする。</p> <p>(修学資金の貸付けの対象)</p> <p>第2条 略</p> <p><u>2 修学資金は、次の各号の一に該当する者に対し、予算の範囲内において貸し付けする。</u></p> <p>(1) <u>学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の医学部若しくは歯学部又は大学院の医学研究科若しくは歯学研究科に在学している者及び医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項に規定する臨床研修（以下「臨床研修」という。）中の者</u></p> <p>(2) <u>学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の薬学部</u>に在学している者</p> <p>(3) <u>診療放射線技師法（昭和26年法律第226号）第20条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した診療放射線技師養成所に在学している者</u></p> <p>(4) <u>臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）第15条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した臨床検査技師養成所に在学している者</u></p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>第2条による改正</p> <p>松前町医療従事者養成修学資金貸付条例</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 この条例は、医師、歯科医師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、<u>臨床工学技士</u>、理学療法士、作業療法士、<u>言語聴覚士</u>、歯科衛生士、歯科技工士、保健師、助産師、看護師又は准看護師（以下「医療従事者」という。）を養成する学校又は養成所（以下「養成施設」という。）に在学している者で、将来松前町の職員として又は松前町内の医療施設において医療業務に従事しようとするものに対し、その修学に必要な資金（以下「修学資金」という。）を<u>貸付け</u>、もつて施設に必要な医療従事者を育成し、及び確保することを目的とする。</p> <p>(修学資金の貸付けの対象)</p> <p>第2条 略</p> <p><u>2 修学資金は、次の各号の一に該当する養成施設に在学している者に対し、予算の範囲内において貸付けする。</u></p> <p>(1) <u>学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する大学の医学部若しくは歯学部又は大学院の医学研究科若しくは歯学研究科</u></p> <p>_____</p> <p>(2) <u>学校教育法に規定する大学の薬学部</u></p> <p>(3) <u>診療放射線技師法（昭和26年法律第226号）に基づく学校又は診療放射線技師養成所</u></p> <p>(4) <u>臨床検査技師等に関する法律（昭和33年法律第76号）に基づく学校又は臨床検査技師養成所</u></p> <p>_____</p> <p>(5) <u>臨床工学技士法（昭和62年法律第60号）に基づく学校又は臨床工学技士養成所</u></p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案
<p>(5) <u>理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）第11条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校若しくは厚生労働大臣が指定した理学療法士養成施設又は同法第12条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校若しくは厚生労働大臣が指定した作業療法士養成施設に在学している者</u></p>	<p>(6) <u>理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）に基づく学校、理学療法士養成施設又は作業療法士養成施設</u></p>
<p>(6) <u>歯科衛生士法（昭和23年法律第204号）第12条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した歯科衛生士養成所に在学している者</u></p>	<p>(7) <u>言語聴覚士法（平成9年法律第132号）に基づく学校又は言語聴覚士養成所</u></p>
<p>(7) <u>歯科技工士法（昭和30年法律第168号）第14条の規定に基づき文部科学大臣が指定した歯科技工士学校又は厚生労働大臣が指定した歯科技工士養成所に在学している者</u></p>	<p>(8) <u>歯科衛生士法（昭和23年法律第204号）に基づく学校又は歯科衛生士養成所</u></p>
<p>(8) <u>保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号。以下「法」という。）第19条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した保健師養成所に在学している者</u></p>	<p>(9) <u>歯科技工士法（昭和30年法律第168号）に基づく学校又は歯科技工士養成所</u></p>
<p>(9) <u>法第20条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した助産師養成所に在学している者</u></p>	<p>(10) <u>保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）に基づく学校、保健師養成所、助産師養成所、看護師養成所又は准看護師養成所</u></p>
<p>(10) <u>法第21条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は厚生労働大臣が指定した看護師養成所に在学している者</u></p>	<p>(削る)</p>
<p>(11) <u>法第22条の規定に基づき文部科学大臣が指定した学校又は知事が指定した准看護師養成所に在学している者</u></p>	<p>(削る)</p>
<p>3 <u>他の医療従事者養成施設から貸付けを受けている者又は受けようとする者で、当該貸付け終了後その医療施設で就労しなければならないものは、貸付けの対象としないものとする。ただし、町長が特別の事情があると認めたときは、この限りでない。</u></p>	<p>(削る)</p>
<p>(貸付金額等)</p> <p>第3条 <u>修学資金の貸付期間及び貸付金額</u>は、別表のとおりとする。</p> <p>2 略</p> <p>(返還)</p> <p>第8条 第6条第1項の規定により修学資金の貸付けを取り消された者</p>	<p>3 <u>松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例（平成19年松前町条例第2号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者又は他の医療施設等から貸付けを受けている者若しくは受けようとする者で、当該貸付け終了後その医療施設等で就労しなければならない者は、貸付けの対象としないものとする。ただし、町長が特別の事情があると認めたときは、この限りでない。</u></p> <p>(貸付けの金額)</p> <p>第3条 <u>修学資金の貸付けの金額</u>は、別表のとおりとする。</p> <p>2 略</p> <p>(返還)</p> <p>第8条 第6条第1項の規定により修学資金の貸付けを取り消された者</p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現	行	改	正	案																																																																											
<p>又は借受者で義務従業期間に達する前に松前町内において医療業務に従事しなくなったもの（同条第2号の規定に該当することとなつた者を除く。）は、その修学資金の貸付けを取り消され、又はその医療業務に従事しなくなった日の属する月の翌月から起算して2箇月以内に、規則で定めるところにより、貸付けを受けた修学資金の全部又は一部を返還しなければならない。</p>		<p>又は借受者で義務従業期間に達する前に松前町内において医療業務に従事しなくなったもの _____は、その修学資金の貸付けを取り消され、又はその医療業務に従事しなくなった日の属する月の翌月から起算して2箇月以内に、規則で定めるところにより、貸付けを受けた修学資金の全部又は一部を返還しなければならない。</p>																																																																													
<p>別表（第3条関係）</p>		<p>別表（第3条関係）</p>																																																																													
<table><tr><th>区分</th><th>貸付期間</th><th>貸付金額（月額）</th></tr><tr><td>医師・歯科医師</td><td>／在学／研修／期間中</td><td>150,000円以内</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>在学期間中</td><td>60,000円以内</td></tr><tr><td>診療放射線技師</td><td>在学期間中</td><td>60,000円以内</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>_____</td><td></td><td>_____</td></tr><tr><td>理学療法士・作業療法士</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>_____</td><td></td><td>_____</td></tr><tr><td>歯科衛生士</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>歯科技工士</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>保健師</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>_____</td><td></td><td>_____</td></tr><tr><td>助産師</td><td>在学期間中</td><td>50,000円以内</td></tr><tr><td>_____</td><td></td><td>_____</td></tr></table>		区分	貸付期間	貸付金額（月額）	医師・歯科医師	／在学／研修／期間中	150,000円以内	薬剤師	在学期間中	60,000円以内	診療放射線技師	在学期間中	60,000円以内	臨床検査技師	在学期間中	50,000円以内	_____		_____	理学療法士・作業療法士	在学期間中	50,000円以内	_____		_____	歯科衛生士	在学期間中	50,000円以内	歯科技工士	在学期間中	50,000円以内	保健師	在学期間中	50,000円以内	_____		_____	助産師	在学期間中	50,000円以内	_____		_____	<table><tr><th>区分</th><th>_____</th><th>貸付金額（月額）</th></tr><tr><td>医師及び歯科医師</td><td>_____</td><td>180,000円以内</td></tr><tr><td>薬剤師</td><td>_____</td><td>90,000円以内</td></tr><tr><td>診療放射線技師</td><td>_____</td><td>90,000円以内</td></tr><tr><td>臨床検査技師</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>臨床工学技士</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>理学療法士及び作業療法士</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>言語聴覚士</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>歯科衛生士</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>歯科技工士</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr><tr><td>保健師、助産師、 看護師及び准看護師</td><td>_____</td><td>80,000円以内</td></tr></table>			区分	_____	貸付金額（月額）	医師及び歯科医師	_____	180,000円以内	薬剤師	_____	90,000円以内	診療放射線技師	_____	90,000円以内	臨床検査技師	_____	80,000円以内	臨床工学技士	_____	80,000円以内	理学療法士及び作業療法士	_____	80,000円以内	言語聴覚士	_____	80,000円以内	歯科衛生士	_____	80,000円以内	歯科技工士	_____	80,000円以内	保健師、助産師、 看護師及び准看護師	_____	80,000円以内
区分	貸付期間	貸付金額（月額）																																																																													
医師・歯科医師	／在学／研修／期間中	150,000円以内																																																																													
薬剤師	在学期間中	60,000円以内																																																																													
診療放射線技師	在学期間中	60,000円以内																																																																													
臨床検査技師	在学期間中	50,000円以内																																																																													
_____		_____																																																																													
理学療法士・作業療法士	在学期間中	50,000円以内																																																																													
_____		_____																																																																													
歯科衛生士	在学期間中	50,000円以内																																																																													
歯科技工士	在学期間中	50,000円以内																																																																													
保健師	在学期間中	50,000円以内																																																																													
_____		_____																																																																													
助産師	在学期間中	50,000円以内																																																																													
_____		_____																																																																													
区分	_____	貸付金額（月額）																																																																													
医師及び歯科医師	_____	180,000円以内																																																																													
薬剤師	_____	90,000円以内																																																																													
診療放射線技師	_____	90,000円以内																																																																													
臨床検査技師	_____	80,000円以内																																																																													
臨床工学技士	_____	80,000円以内																																																																													
理学療法士及び作業療法士	_____	80,000円以内																																																																													
言語聴覚士	_____	80,000円以内																																																																													
歯科衛生士	_____	80,000円以内																																																																													
歯科技工士	_____	80,000円以内																																																																													
保健師、助産師、 看護師及び准看護師	_____	80,000円以内																																																																													

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現行			改正案		
<u>看護師</u>	<u>在学期間中</u>	<u>50,000円以内</u>			
<u>准看護師</u>	<u>在学期間中</u>	<u>50,000円以内</u>			

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案
<p>第3条による改正</p> <p>松前町奨学資金条例</p> <p>(奨学生の資格)</p> <p>第2条 奨学資金の貸与を受ける者（以下「奨学生」という。）は本町民であつて次に掲げる条件をそなえたものでなければならない。 ____</p> <p>____</p> <p>____</p> <p>____</p> <p>____</p> <p>(1) ～ (2) 略</p>	<p>第3条による改正</p> <p>松前町奨学資金条例</p> <p>(奨学生の資格)</p> <p>第2条 奨学資金の貸与を受ける者（以下「奨学生」という。）は本町民であつて次に掲げる条件をそなえたものでなければならない。<u>ただし、松前町医療従事者養成修学資金貸付条例（平成11年松前町条例第11号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者又は松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例（平成19年松前町条例第2号）に基づく貸付けを受けている者若しくは受けようとする者を除く。</u></p> <p>(1) ～ (2) 略</p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案
	<p>附 則</p> <p>(施行期日)</p> <p>1 この条例は、令和３年４月１日から施行する。</p> <p>(経過措置)</p> <p>2 第１条の規定による改正後の松前町病院事業医療技術職修学資金貸付条例第７条第１号の規定は、この条例の施行日（以下「施行日」という。）以後の貸付分から適用し、施行日前の貸付分については、なお従前の例による。</p> <p>(松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する条例の一部改正)</p> <p>3 松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する条例（平成２３年松前町条例第１６号）の一部を次のように改正する。</p> <p>別表資金の貸付の項中「病院事業修学資金」を「病院事業医療技術職修学資金」に改める。</p>

※ \_\_\_\_\_が改正部分

現 行	改 正 案																												
<p>附則第３項による改正</p> <p>松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する 条例</p> <p>別表（第３条関係）</p> <table> <tr> <th>区分</th><th>事務事業名</th></tr> <tr> <td>入札及び契約等</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td>町有財産の使用 許可及び貸付等</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td>補助金等の交付</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td rowspan="3">資金の貸付</td><td>奨学資金の貸付</td></tr> <tr> <td>医療従事者養成修学資金の貸付</td></tr> <tr> <td>病院事業修学資金_____の貸付</td></tr> <tr> <td>祝金の支給</td><td>（略）</td></tr> </table>	区分	事務事業名	入札及び契約等	（略）	町有財産の使用 許可及び貸付等	（略）	補助金等の交付	（略）	資金の貸付	奨学資金の貸付	医療従事者養成修学資金の貸付	病院事業修学資金_____の貸付	祝金の支給	（略）	<p>附則第３項による改正</p> <p>松前町特定滞納者等に対する行政サービス等の制限措置に関する 条例</p> <p>別表（第３条関係）</p> <table> <tr> <th>区分</th><th>事務事業名</th></tr> <tr> <td>入札及び契約等</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td>町有財産の使用 許可及び貸付等</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td>補助金等の交付</td><td>（略）</td></tr> <tr> <td rowspan="3">資金の貸付</td><td>奨学資金の貸付</td></tr> <tr> <td>医療従事者養成修学資金の貸付</td></tr> <tr> <td>病院事業医療技術職修学資金の貸付</td></tr> <tr> <td>祝金の支給</td><td>（略）</td></tr> </table>	区分	事務事業名	入札及び契約等	（略）	町有財産の使用 許可及び貸付等	（略）	補助金等の交付	（略）	資金の貸付	奨学資金の貸付	医療従事者養成修学資金の貸付	病院事業医療技術職修学資金の貸付	祝金の支給	（略）
区分	事務事業名																												
入札及び契約等	（略）																												
町有財産の使用 許可及び貸付等	（略）																												
補助金等の交付	（略）																												
資金の貸付	奨学資金の貸付																												
	医療従事者養成修学資金の貸付																												
	病院事業修学資金_____の貸付																												
祝金の支給	（略）																												
区分	事務事業名																												
入札及び契約等	（略）																												
町有財産の使用 許可及び貸付等	（略）																												
補助金等の交付	（略）																												
資金の貸付	奨学資金の貸付																												
	医療従事者養成修学資金の貸付																												
	病院事業医療技術職修学資金の貸付																												
祝金の支給	（略）																												

※ \_\_\_\_\_が改正部分